

令和7年度 第1回文化財保護審議会 会議録

開催期日	令和7年7月8日(火) 午後14時00分～14時50分				
開催場所	本庁舎6階 第二委員会室				
出席状況	委員6名中6名 事務局6名				
傍聴人状況	0名				
主な議題	(1) 令和6年度文化財保護事業報告について				
	(2) 令和7年度文化財保護事業計画について				
	その他 ①包蔵地の追加指定について				
	②彦成村全図の修理について				
席次番号	委員氏名	摘要	席次番号	委員氏名	摘要
1	大山 宏尚	Ⓔ・欠			
2	鈴木 重臣	Ⓔ・欠			
3	千代田 光雄	Ⓔ・欠			
4	堀内 仁之	Ⓔ・欠			
5	白石 匡子	Ⓔ・欠			
6	三田 博	Ⓔ・欠			
事務局	横田 隆宏	生涯学習部長	事務局	梅澤 十三男	生涯学習課主査
事務局	名川 伸太郎	生涯学習課長	事務局	相羽 建尊	生涯学習課主事
事務局	菊地 敏行	生涯学習課長補佐			
事務局	佐藤 有起	生涯学習係長兼 郷土資料館長			

会 議 名		令和7年度 第1回文化財保護審議会
議 事	事務局	1. 開会(司会進行:名川課長)
		2. 会長・教育長挨拶
		3. 委員・職員紹介
		4. 議事
		(1) 令和6年度文化財保護事業報告について
		○資料1 令和6年度主な事業の報告
		【質疑応答】
	委員	市内の旧家より市で把握している古文書の全点を受け入れたと思うが、公開時の取り交わしなどされているか。公開や活用を市にすべて任されている状況か。それとも、公開時には寄贈者と相談してからなのか。資料活用時のトラブルを回避する対策はとられているか。
	事務局	頂いた古文書は現在整理中である。活用時に、適宜許可を取る必要があるかなどの判断をしていく予定である。
	委員	所有者本人が亡くなってしまった場合はどうするか。
	事務局	先ほどお伝えしたように、まだ整理中で、活用の段階になった際に、判断したい。
	委員	今回の資料の受け入れは寄贈か、寄託か。寄贈であれば市の所有になるだろう。
	事務局	寄贈で受けていれている。
	委員	寄贈であれば、所有は基本市の物になるだろう。そうであれば、活用や公開するときに、元所有者の許可は不要なのではないだろうか。
	委員	寄贈された古文書には、取扱いの難しい個人情報が含まれている。寄贈で資料を受け入れてはいるがそれでも個人情報の保護に気を遣うべき資料だと思われる。元所有者との話し合いや、黒塗りなどを活用して公開する情報は精査する必要があると思われる。
	事務局	ご意見を参考にさせていただき、今後の資料受け入れ態勢を整える。
		(2) 令和7年度文化財保護事業計画について
		○資料2 令和7年度文化財保護事業計画
		【質疑応答】
		特に無し。
		5. その他
		①包蔵地の追加指定について
		○資料3 包蔵地の追加指定について
		【質疑応答】
	特に無し。	
	②彦成村全図の修理について	
	○資料3 彦成村全図の修理について	
	【質疑応答】	
委員	説明の中で地図の電子化の話があったが、自宅のパソコンでも閲覧できるようにしていただきたい。データの圧縮などは可能か。気軽に、パソコンの画面で閲覧できるようにすると効率よく活用できると思われる。	
事務局	まず裏打ちを行い、スキャニングして電子化する予定である。電子化する際の	

会議名	令和7年度 第1回文化財保護審議会
	解像度に関しては、ひとまずは修理を進めてから、業者と相談することになるだろう。
委員	自宅のパソコンや、もしくは図書館のパソコンで気軽に閲覧し利用できるデータでの提供を望む。
事務局	データ化ののち、写真印刷も検討している。資料を何度も開いて、痛めてしまうことを避けるような方法を考える。
委員	ほぼ同じ地図を所有している。この地図が六つほどに区切られており、冊子となっている。頑丈な用紙でできており、色も鮮明に残っている。状態がいいので、修復の参考になると思う。
委員	これは売られていたのだろうか。
事務局	掛け軸の物と冊子の物が作られ、当時配られたのかもしれない。正確な情報が残っていない。そのため、今日だれが何冊、どのような状態で保管しているか不明な状況である。
委員	この一枚の掛け軸は見たことがない。珍しく、価値のあるものだろう。
委員	他の地区の村全図はあるのだろうか。
委員	無いと伺っている。彦成村だけである。
委員	この全図はずっと市役所に保管されていたのだろうか。
事務局	長らく市役所で保管していたものである。ただし、だれから寄贈を受けたのか等の記録が残っていない。
委員	細かく大正時代当時の区割りが描かれていて貴重である。今後市の指定文化財に登録することも検討が必要であると考えます。
委員	登録には、やはり製作者や製作の経緯など当時の状況を知り、また現在どれだけの全図が残っているか確認が必要である。
委員	彦成村全図がどれだけ現存しているか、広報などを通じて発信し、現状把握をしたほうが良いのではないかと提案する。
	5. 閉会（千代田副会長）
	以上

